

## 平成 22 年度アジア地震学会 (ASC) 渡航助成金成果報告書

京都大学大学院 理学研究科  
博士課程 2 年 浦田優美

2010 年 11 月 8 日から 10 日に、ベトナムの首都ハノイで the 8<sup>th</sup> ASC General Assembly (ASC2010) が行われました。私は平成 22 年度アジア地震学会 (ASC) 渡航費の助成をいただいで本学会に参加し、口頭発表およびポスター発表を行いましたのでその成果を報告致します。

ASC2010 は、これまでに私が参加した学会とは雰囲気が大きく異なり、たいへん新鮮でした。第一に、日本人の少なさが挙げられます。日本人の参加者は二十数名で、参加者全体の1割程度でした。アジア各国から集まった参加者は、それぞれ独特の英語を話していました。第二に、発表内容の違いです。震源過程に関する口頭発表が非常に少なく、そのかわり、津波や防災に関する発表が多くありました。第三に、発表キャンセルの多さです。会場で人が少ないという印象はうけませんでした。口頭発表のキャンセルが多く、残念でした。しかし、その時間に他国の若手研究者と会話し、仲良くなることができました。

私は二日目の午前最後に、震源と地震の予測のセッションで、**thermal pressurization** と間隙水の相変化が動的破壊過程に与える影響について口頭発表をしました。これまでも数回英語で口頭発表したことがあったのですが、今回がいちばん緊張しました。発表内容について、インドの **Harsh Gupta** 氏が興味を持って下さり、直接お話することができました。その際、来年インドで行われるワークショップに誘っていただき、嬉しかったです。口頭発表をする人は、全員ポスター発表もすることになっており、私もポスターを作って掲示していました。しかし、ポスター発表の時間には同時に口頭発表が行われており、また、コアタイムが自分の発表と重なっていたため、ポスター発表の機会を有効活用することができませんでした。

ハノイでの四日間は、驚きの連続でした。特に、バイクと車の多さに唖然としました。水を買おうと町に出たのですが、道路を渡ろうにもバイクと車がひしめきあって走っており、横断歩道は全く役割を果たしていませんでした。バイクと車が途切れた一瞬の間に走って道路を渡らねばならず、道路を渡るのも命がけだと思いました。現地の方がバイクと車の間をぬって悠然と道路を歩いて渡っている様は本当に魔法のようで、不思議でなりませんでした。そんな私たちでしたが、最終日にはなんとか道路を歩いて渡ることができるようになりました。

ASC 渡航助成金の援助により、たいへん貴重な経験をすることができました。このような機会を与えて下さったことに深く感謝申し上げます。